

平成30年10月4日

西部農林振興センター県央事務所農業普及部

標 題	<p style="text-align: center;">わが町もリースハウスで産地レベルのステップアップ！</p> <p style="text-align: center;">～リースハウスを活用した施設園芸産地育成勉強会を開催～</p>
------------	---

(ダイジェスト)

邑智郡内では、美郷町においてリースハウス事業が先行導入されているが、郡内他町の担い手へも、その実績と効果に関する情報が広がり、低迷しつつある産地の未来像が描けると反響を呼んでいる。また、同様な取組みが広く郡内で取り組めないか、普及部が中心となり情報提供、協議・検討を行ってきた。そんな中、平成30年9月20日に「リースハウスを活用した施設園芸産地育成勉強会」が邑南町役場において開催され、邑南町関係者やJA地区本部の担当のみならず、川本町関係課からも飛入り参加があるなど、制度や関係事業等について理解を深める熱心な勉強会となった。

邑智郡内では、JAの振興品目であるトマト・ミニトマトや白ネギ、ナスなどが産地化され認定農業者や集落営農法人を中心に広く生産されてきた。しかし、他の多くの品目同様に担い手の高齢化などにより、その販売額は、長く減少傾向が続いている。そんな中、美郷町において、初期の設備投資に掛かる負担を大きく低減できる、リース方式のハウス導入が平成27年から始まり、新たな担い手の確保対策として脚光を浴びている。

郡内の他町でも、近隣町でリースハウスを活用した新たな産地育成の手法が導入された情報が共有され、同様な事業の予算化が検討されるようになってきた。

そこで、このたび邑南町と普及部で調整を行い、リースハウスの勉強会を川本町も参画する形で開催することとなった。

勉強会冒頭には、邑南町の担当者から、「町内の認定農業者は、規模が小さく、売り上げも多くない。もう一段階ステップアップした農業者に進展していかなければ、後継者も経営を継承する決断ができず、新規就農者の目指す手本にも成り切れない。産地の思い切った構造改革を成し遂げるためにも、リースハウス導入から始まる新たな産地支援を積極的に推進したい。3年後、5年後に望ましい産地の姿へと変貌させるスタートとして、この勉強会を設定した。」との決意表明があった。

勉強会には、農産園芸課と西部農林振興センター農政部から担当者を招聘し、リース方式のハウス導入の基礎的事項から具体的な事業導入までのイメージとリースハウスに関する疑義を一つひとつ確認できる絶好の機会とすることができた。

普及部では、今後の方向性の検討や産地の目指す姿を具現化するための支援を引き続き進めることとしている。



リースハウス勉強会の様子